

令和4年度 特色ある学校づくり推進事業 報告書

学校番号（58） 学校名（豊田市立本城小学校）

1 テーマ

ふるさとのひと・こと・ものに愛着をもち、地域を拓く子どもの育成
～ふるさと学習・城山学習を通して、子どもの社会力を育てる～

2 ねらい

- 本校が立地する本城地区には「小原和紙」「打ちはやし」「四季桜」「小原歌舞伎」など、数々の伝統文化・伝統的なものがある。それを学び継承すること（ふるさと学習）や地域の「ひと・もの・こと」を生かした学習（城山学習）を通して、子どもたちが、地域への理解を深め、誇りや愛着をもち、地域（小原）の将来を考えていく。
- 学習したことの地域（小原地区をはじめ市内・市外等）へ発信したり、地域の役に立つ活動をしたりすることで、子どもたちの「郷土をよりよい地域へと発展させようとする意欲（郷土愛）」や「社会力」を育てていく。

3 活動内容

（1）小原和紙の作品づくり

- 全学年の子どもたちが「小原和紙」の作品づくりに取り組み、一人1作品を制作した。
- 数年前から子どもの発達段階を考慮して、作品の様式は、1・2年生が「立体作品」（1年「すてきなともだち」、2年「カラフルぼうし」）、3～6年生が「絵画作品」（3・4年「まばろしの花」、5年「SDGs 未来に残したい生き物」、6年「修学旅行の思い出」）とした。
- 6年生を中心に全校児童の手で、9月に和紙を使って「軽トラあんどん」作品を制作し、10月には地域を盛り上げる活動「あんどんパレード」に参加した。

（2）本城打ちはやし

- 新型コロナウイルス感染症予防をしながら、各学年や合同練習を4月から続け、個々の技能を向上させるとともに、掛け声・笛・太鼓を合わせて演奏の質を向上させた。
- 1月には、3年ぶりに「四季桜まつり会場での発表」を行い、多くの観客の前で演奏した。また、5月には「運動会」で、2月には「学習発表会」で、3月の「卒業生見送り」でも、保護者や来賓に演奏を披露した。
- 1月には、小原太鼓グループの方を講師として招き、太鼓の叩き方を指導していただいたことで、基本技能を学ぶことができた。

（3）米づくり・四季桜のさし木活動

- 地域講師から「米づくり」（5年生）「四季桜のさし木」（3・4年生）について指導を受け、進んで活動した。

（4）四季桜まつりでの小原PR活動

- 5年生は、打ちはやしの演奏後、会場に来ていた人たちに「小原についてのアンケート調査」を行い、小原の魅力や課題について調べた。また、協力してくださった方には、自分たちで育て収穫したお米をプレゼントし、「ミネアサヒ」のPRをした。

4 成果と課題

(1) 成果

①和紙作品制作（全学年）

- 6年前から現在の地域講師（和紙作家Fさん）から指導を受け、6月から12月にかけて、全学年児童が和紙作品の制作に取り組んだ。
- 秋には6年生が中心となり、全学年共同で「軽トラあんどん」の作品（テーマ「小原を明るく」）を制作した。そして、10月上旬の「軽トラあんどんパレード」に出品し、小原地区の方々に観賞していただいた。
- 今年度も、地域講師や担任の指導を受けながら和紙作品制作の活動を通して、和紙制作の技能を身に付けるとともに、1・2年では「和紙作品制作の楽しさ」を、3～6年では「小原和紙のすばらしさ」を実感し、郷土への誇りと愛着を深めた。
- 各学年の発達段階に合った様式・題材であることもあり、子どもたちはとても意欲的に取り組み、達成感・成就感・満足感を味わうことができた。
- 地域講師Fさんは、今年度も、一人一人の児童の思いや考えを大切にしながら、具体的に指導・支援をしてくださった。そのおかげで、子どもたちは和紙制作の技法を学び、技量の向上を図りながら、自分の思いを生かした作品を仕上げることができた。
- 全学年の作品は「小原和紙子ども作品展」の会場（小原和紙美術館・小原交流館）や地域の施設で展示し、地域の人々にも観賞していただいた。このように、子どもたちの作品を地域で展示することは、子どもたちが伝統文化の一つである「和紙」を確実に受け継いでいることを地域の方々に知っていただくことにもなっている。今後も積極的に地域の方々に本校の和紙作品制作の取組を紹介していきたい。

②本城打ちはやし（全学年）

- 今年度も、感染症予防に配慮しながら、打ちはやしの活動（校内での練習、その成果を発揮して校内での発表）を行ってきた。これらの活動を通して、子どもたちの「表現力」を高めるとともに、「郷土への誇りや愛着」を育てることができた。
- グループ練習では、上級生から下級生に教える姿や同級生同士で教え合う姿が見られ、子ども同士で「打ちはやしの伝統」を受け継ぐとともに、子どもたちの「良好な人間関係づくり」にも寄与した。
- 太鼓講師・Oさんに「太鼓の叩き方の基本」を習った子どもたちは、少しずつ自信をもって叩けるようになってきた。
- 3年ぶりに「四季桜まつり」の特設ステージで演奏を披露することができた。子どもたちはとても意気込み、勇ましく立派に発表することができた。観客（観光客や地域の方々）からは盛大な拍手をいただき、子どもたちは達成感・充実感・満足感を味わうことができた。
- そのほか、「入学式」「運動会」「学習発表会」「卒業式」などの学校行事においても打ちはやし演奏を披露することができ、コロナ前とほぼ同じように発表する機会を設けることができた。

③地域講師・地域からの学び、地域等への発信（全学年）

- 和紙制作・米づくり・四季桜のさし木などにおいて、地域講師から直接指導を受けたり、地域に出かけ地域の人から学んだりすることで、地域をよりよくしたいという願

いにふれ、地域に役立つことをしようとする子どもの姿が見られた。

- 今年度の6年生も「軽トラあんどん」の趣旨に共感し、9月に下級生に参加を呼びかけ、自らが中心となって全校児童あんどん作品を制作した。子どもたちの「小原への思い」を込めた和紙のあんどんは、地域の方の軽トラックの荷台に載せ、小原地区を周回し、地域の方々に観賞していただくことができた。
- 5年生は、11月、四季桜まつり会場で、観光客に対し「小原についてのアンケート調査」を行い、小原の魅力や課題について調べた。その際、アンケート調査のお礼として、自分たちで糀まきから稻刈りまでして作った「お米（品種：ミネアサヒ）」を配り、小原の良さを紹介した。多くの方からいただいた意見をもとに「ふるさと小原」を見つめ直すことができた。そして、自分たちが積極的にPR活動をしたことで達成感を味わうことができた。

⑥保護者の共感的な声（保護者アンケートの結果より）

- 保護者アンケートでは、打ちはやし、和紙制作、米づくり、城山学習などの『特色ある学校づくり推進事業』に対して「大変よい」及び「よい」と回答した方は、今年度も全体の約9割であった。ウズコロナの中でも、できることを考え積極的に取り組んできた「本城小ならではの特色ある教育活動」が、今年度も、子どもの姿を通して保護者の理解・共感を得ているからだと考える。
- 『特色ある学校づくり推進事業』の諸活動に子どもたちが生き生きと取り組むとともに、学校と地域が連携して「故郷に愛着と誇りをもつ指導」を続けてきたことの成果が、保護者や地域からの好評につながっていると考える。

（2）課題

- 年々児童数が減少ってきて、「打ちはやし」において、太鼓や篠笛（獅子笛）の担当人数が減り、迫力ある演奏が難しくなってきた。とりわけ、篠笛については、演奏できるまでには相当な時間と練習が必要であるため、発達段階を踏まえて、1年生から篠笛を使って音出しなどに取り組み、演奏できる児童を増やせるように努めている。
- 上級生が下級生に教えることも積極的に行い、技能の伝承を進めている。少ない人数かつ限られた練習時間で「打ちはやしの伝承・技能向上」を図るのは難しい点が多いが、教員や子どもたちの努力によって成果を出している。
- 1・2年生の「立体作品」と3年生以上の「絵画的平面作品」の制作には技術的な差が大きいため、学年の発達段階と平面作品への移行を考慮した指導を心がけているが、難しい点もある。現職教育（校内研修）で地域講師から教員も学んだり、子どもの制作過程の途中で適宜指導を受けたりしてきたことにより、毎年、少しずつ技量や指導力の向上を図ってきている。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- 「学校ホームページ」で各学年の取り組みや全校活動の様子等を紹介した。
〔特色ある学校づくりの取組の紹介：約40ページ、週1回程度更新〕
- 「学校だより」「学年だより」等で、児童の活動の様子を紹介した。
〔学校だよりは月2回程度発行、学年だよりは月に数回発行〕
- 11月、「四季桜まつり」の会場にて、全校児童が「打ちはやし」を披露し、多くの

来場者（観光客・地域の方々）へ向けて発表した。

- 1月～2月に全校児童の「和紙作品」を小原和紙美術館・小原交流館及びその他の施設で展示し、地域の多くの方々に見ていただくことができ、好評であった。
- 2月中旬の『学習発表会』では、生活科・総合的な学習の「1年間のまとめ」を保護者や地域の方に参観していただく予定で進めている。

〔保護者だけでなく、来賓の方にも参観していただくよう、学校から案内〕